

国立法人東京農工大学大学院生物システム応用科学府教育規則の一部改正

国立法人東京農工大学大学院生物システム応用科学府教育規則を次のとおり改正する。

現行	改正	改正理由
<p>本則 (指導教員等) 第2条 (略) (新設)</p> <p>2 前項に規定する指導教員及び指導補助教員の資格審査については、別に定める。</p> <p>第4条 後期3年の課程(以下「博士後期課程」という。)の授業科目及び単位数は、別表第2のとおりとする。</p> <p>2 博士後期課程生物システム応用科学専攻の学生は、必修科目8単位及び選択科目4単位以上あわせて12単位以上を修得しなければならない。 (新設)</p> <p>3 (略)</p> <p>4 (略)</p> <p>(他の学府等の単位の修得)</p> <p>第6条 学則第76条及び第76条の2(それぞれ第3項を除く。)の規定により他の大学院において修得した単位がある場合は、博士前期課程及び博士後期課程を通して10単位を限度として、第3条第2項又は第4条第2項に規定する選択科目の単位数に算入することができる。</p> <p>2 前条第2項の規定により本学の工学府、農学府又は連合農学研究科にお</p>	<p>本則 (指導教員等) 第2条 (略)</p> <p><u>2 食料エネルギーシステム科学専攻にあつては、教育上有益と認めるときは、国立大学法人東京農工大学大学院生物システム応用科学府運営規則第5条に規定する協力教員(以下「協力教員」という。)</u>又は国立大学法人東京農工大学における学生の派遣、留学及び受入れに関する規程第18条に規定する他の大学院等の教員等(以下「他の大学院等の教員等」という。)<u>をもって、前項に規定する指導教員又は指導補助教員に充てることができるものとする。</u></p> <p>3 <u>第1項に規定する指導教員及び指導補助教員(協力教員及び他の大学院等の教員等を除く。)</u>の資格審査については、別に定める。</p> <p>第4条 後期3年の課程(以下「博士後期課程」という。)<u>並びに前期及び後期の課程の区分を設けない博士課程(以下「一貫制博士課程」という。)</u>の授業科目及び単位数は、別表第2のとおりとする。</p> <p>2 博士後期課程生物機能システム科学専攻の学生は、必修科目8単位及び選択科目4単位以上あわせて12単位以上を修得しなければならない。</p> <p>3 <u>一貫制博士課程食料エネルギーシステム科学専攻の学生は、必修科目20単位及び選択科目8単位以上あわせて54単位以上を修得しなければならない。</u></p> <p>4 (略)</p> <p>5 (略)</p> <p>(他の学府等の単位の修得)</p> <p>第6条 学則第76条及び第76条の2(それぞれ第3項を除く。)の規定により他の大学院において修得した単位がある場合は、博士前期課程及び博士後期課程並びに<u>一貫制博士課程</u>を通して10単位を限度として、第3条第2項又は第4条第2項から同条第4項までに規定する選択科目の単位数に算入することができる。</p> <p>2 前条第2項の規定により本学の工学府、農学府又は連合農学研究科にお</p>	

<p>いて修得した単位がある場合は、博士前期課程及び博士後期課程を通して10単位を限度として、第3条第2項又は第4条第2項に規定する選択科目の単位数に算入することができる。</p> <p>3 (略)</p> <p>(研究題目の届出)</p> <p>第9条 (略)</p> <p>2 前項に基づき研究題目を定めたときは、研究題目及び研究計画を別紙様式1により、所定の期間内に指導教員(博士後期課程にあつては主指導教員)を経て、学府長に届け出るものとする。</p> <p>3 (略)</p> <p>(学位論文の提出)</p> <p>第10条 (略)</p> <p>2 博士後期課程の学生及び国立大学法人東京農工大学学位規程(以下、「学位規程」という。)第6条ただし書に規定する者は、論文審査に関する申請書に学位論文、学位論文要旨等を添え、主指導教員を経て学府長に提出しなければならない。</p> <p>3・4 (略)</p> <p>(新設)</p> <p>(博士論文研究基礎力審査)</p> <p>第11条 前条第1項の規定にかかわらず、博士前期課程の学生であつて学則第71条の2に規定する博士課程教育リーディングプログラムを履修する者は、学府が博士課程の目的を達成するために必要と認める場合、学則第73条第3項各号に規定する試験及び審査を受けることにより修士の学位論文の提出及び最終試験の受験に代えることができる。</p> <p>2~4 (略)</p> <p>(新設)</p> <p>(雑則)</p> <p>第13条 この規則に定めるもののほか、教育の実施について必要な事項は、学府教授会が定める。</p>	<p>いて修得した単位がある場合は、博士前期課程及び博士後期課程並びに<u>一貫制博士課程</u>を通して10単位を限度として、第3条第2項又は第4条第2項から同条第4項までに規定する選択科目の単位数に算入することができる。</p> <p>3 (略)</p> <p>(研究題目の届出)</p> <p>第9条 (略)</p> <p>2 前項に基づき研究題目を定めたときは、研究題目及び研究計画を別紙様式1により、所定の期間内に指導教員(博士後期課程及び<u>一貫制博士課程</u>にあつては主指導教員)を経て、学府長に届け出るものとする。</p> <p>3 (略)</p> <p>(学位論文の提出)</p> <p>第10条 (略)</p> <p>2 博士後期課程及び<u>一貫制博士課程</u>の学生並びに国立大学法人東京農工大学学位規程(以下、「学位規程」という。)第6条ただし書に規定する者は、論文審査に関する申請書に学位論文、学位論文要旨等を添え、主指導教員を経て学府長に提出しなければならない。</p> <p>3・4 (略)</p> <p><u>5 食料エネルギーシステム科学専攻における学位論文の提出については別に定める。</u></p> <p>(博士論文研究基礎力審査)</p> <p>第11条 前条第1項の規定にかかわらず、博士前期課程の学生であつて学則第71条の2に規定する博士課程教育リーディングプログラムを履修する者は、学府が博士課程の目的を達成するために必要と認める場合、学則第73条第3項各号に規定する試験及び審査(以下「<u>博士論文研究基礎力審査</u>」という。)を受けることにより修士の学位論文の提出及び最終試験の受験に代えることができる。</p> <p>2~4 (略)</p> <p><u>5 食料エネルギーシステム科学専攻における博士論文研究基礎力審査については、別に定める。</u></p> <p>(雑則)</p> <p>第13条 この規則に定めるもののほか、教育の実施について必要な事項は、学府教授会<u>の議を経て別に定める。</u></p>	
--	---	--

別表第1(第3条関係)			
〔博士前期課程〕			
生物システム応用科学専攻			
科目区分	授業科目	単位数	
学際交流科目	生物システム応用科学研究概論	◎2	
融合基礎科目	基礎技術演習 I	◎1	
	基礎技術演習 II	◎1	
分野交流科目	実践発表 I	◎1	
	実践発表 II	1	
起業科目	アントレプレナー特論 I	▲1	
	アントレプレナー特論 II	▲1	
	アントレプレナー特論 III	▲1	
専門交流科目	アドバンスト I	△1	
	アドバンスト II	△1	
	アドバンスト III	△1	
	アドバンスト IV	1	
	アドバンスト V	1	
	アドバンスト VI	1	
	アドバンスト VII	1	
	アドバンスト VIII	1	
物質機能システムコース	専門分野科目	物質機能設計特論 I	2
		物質機能設計特論 II	2
		物質機能応用特論 I	2
		物質機能応用特論 II	2
		物質エネルギーシステム特論 I	2
		物質エネルギーシステム特論 II	2
		超分子機能システム特論 I	2
		超分子機能システム特論 II	2
	論文研究等	物質機能システム学セミナー	○4
		物質機能システム学特別実験	○2
物質機能システム学特別研究		○4	

別表第1(第3条関係)		
〔博士前期課程〕		
生物機能システム科学専攻		
科目区分	授業科目	単位数
学際交流科目	生物システム応用科学研究概論	◎2
融合基礎科目	基礎技術演習 I	◎1
	基礎技術演習 II	◎1
分野交流科目	実践発表 I	◎1
	実践発表 II	1
起業科目	アントレプレナー特論 I	▲1
	アントレプレナー特論 II	▲1
	アントレプレナー特論 III	▲1
専門交流科目	アドバンスト I	△1
	アドバンスト II	△1
	アドバンスト III	△1
	アドバンスト IV	1
	アドバンスト V	1
論文研究等	生物機能システム科学セミナー	◎4
	生物機能システム科学特別実験	◎2
	生物機能システム科学特別研究	◎4
専門基礎科目	物質機能設計特論 I	1
	物質機能設計特論 III	1
	物質機能応用特論 I	1
	物質機能応用特論 III	1
	物質機能分析特論 I	1
	物質機能分析特論 III	1
	生体医用フォトニクス特論 I	1
	生体医用フォトニクス特論 III	1
	生体モデル知覚システム特論 I	1
	生体モデル知覚システム特論 III	1
環境機械システム特論 I	1	

生体機構 情報シス テムコー ス	専門分野科目	生体情報反応システム特論Ⅰ	2
		生体情報反応システム特論Ⅱ	2
		神経機能情報ネットワーク特論Ⅰ	2
		神経機能情報ネットワーク特論Ⅱ	2
		生体モデル知覚システム特論Ⅰ	2
		生体モデル知覚システム特論Ⅱ	2
		生体機能運動システム特論Ⅰ	2
		生体機能運動システム特論Ⅱ	2
	論文研究等	生体機構情報システム学セミナー	○4
		生体機構情報システム学特別実験	○2
生体機構情報システム学特別研究		○4	
循環生産 システム コース	専門分野科目	生態系型生産システム特論Ⅰ	2
		生態系型生産システム特論Ⅱ	2
		生物相関システム特論Ⅰ	2
		生物相関システム特論Ⅱ	2
		資源循環利用システム特論Ⅰ	2
		資源循環利用システム特論Ⅱ	2
		生物・環境計測システム特論Ⅰ	2
		生物・環境計測システム特論Ⅱ	2
	論文研究等	循環生産システム学セミナー	○4
		循環生産システム学特別実験	○2
循環生産システム学特別研究		○4	

備考

- 1 (略)
- 2 起業科目については、選択必修とし、▲印の授業科目から2単位以上を修得すること。
- 3 専門交流科目については、選択必修とし、△印の授業科目から2単位以上を修得すること。また、△印の授業科目以外のアドバンスト科目については、年度によって開講しない場合がある。
- 4 専門分野科目については、それぞれ所属するコースの科目から4単位以上を修得すること。
- 5 ○印の授業科目については、それぞれ所属するコースの科目を必修

専門応用科目	環境機械システム特論Ⅲ	1
	生体・環境応用システム特論Ⅰ	1
	生体・環境応用システム特論Ⅲ	1
	資源生物創製科学特論Ⅰ	1
	資源生物創製科学特論Ⅲ	1
	物質機能設計特論Ⅱ	1
	物質機能設計特論Ⅳ	1
	物質機能応用特論Ⅱ	1
	物質機能応用特論Ⅳ	1
	物質機能分析特論Ⅱ	1
	物質機能分析特論Ⅳ	1
	生体医用フォトニクス特論Ⅱ	1
	生体医用フォトニクス特論Ⅳ	1
	生体モデル知覚システム特論Ⅱ	1
	生体モデル知覚システム特論Ⅳ	1
環境機械システム特論Ⅱ	1	
環境機械システム特論Ⅳ	1	
生体・環境応用システム特論Ⅱ	1	
生体・環境応用システム特論Ⅳ	1	
資源生物創製科学特論Ⅱ	1	
資源生物創製科学特論Ⅳ	1	

備考

- 1 (略)
- 2 起業科目については、▲印の授業科目から2単位以上を修得すること。
- 3 専門交流科目については、△印の授業科目から2単位以上を修得すること。また、△印の授業科目以外のアドバンスト科目については、年度によって開講しない場合がある。
- 4 専門基礎科目から2単位以上を修得すること。
- 5 専門応用科目から2単位以上修得すること。

とする。

別表第2(第4条関係)

[博士後期課程]

生物システム応用科学専攻

科目区分	授業科目	単位数	
分野交流科目	実践英語発表 I	1	
	実践英語発表 II	1	
物質機能システムコース	専門分野科目	機能材料設計特論	2
		物質機能開発特論	2
		機能物質設計特論	2
		触媒機能応用特論	2
		エネルギー材料システム特論	2
		反応工学特論	2
		分子システム設計特論	2
		生物分子分光特論	2
	論文研究等	物質機能システム学特別セミナー	○2
		物質機能システム学特別計画研究	○6
生体機構情報システムコース	専門分野科目	生命機械システム特論	2
		環境エネルギーシステム特論	2
		生体システム特論	2
		生体情報処理特論	2
		視覚信号処理特論	2
		視覚情報伝達特論	2
		人工物創成システム特論	2
		数値制御運動特論	2
	論文研究等	生体機構情報システム学特別セミナー	○2
		生体機構情報システム学特別計画研究	○6
循環生産システムコース	専門分野科目	ファイトテクノロジー特論	2
		土壌生態系機能解析特論	2
		生物特異的認識特論	2

別表第2(第4条関係)

[博士後期課程及び一貫制博士課程]

生物機能システム科学専攻

科目区分	授業科目	単位数	
分野交流科目	実践英語発表 I	1	
	実践英語発表 II	1	
論文研究等	生物機能システム科学特別セミナー	◎2	
	生物機能システム科学特別研究	◎6	
専門融合科目	物質機能材料開発特論 I	1	
	エネルギー材料システム特論 I	1	
	機能物質設計特論 I	1	
	物質環境設計特論 I	1	
	超分子機能解析特論 I	1	
	分子環境土壌学特論 I	1	
	生命機械システム特論 I	1	
	エネルギーマネジメント特論 I	1	
	生体画像計測特論 I	1	
	環境調和型エネルギー技術特論 I	1	
	生体計測フォトンクス特論 I	1	
	生体応用フォトンクス特論 I	1	
	視覚情報伝達特論 I	1	
	視覚信号処理特論 I	1	
	生物コミュニケーション特論 I	1	
	資源生産制御特論 I	1	
	専門応用科目	物質機能材料開発特論 II	1
		エネルギー材料システム特論 II	1
		機能物質設計特論 II	1
		物質環境設計特論 II	1
	超分子機能解析特論 II	1	

	生物コミュニケーション特論	2
	資源生産制御特論	2
	生物資源循環制御特論	2
	バイオセンシング特論	2
	生体電気計測特論	2
論文研究	循環生産システム学特別セミナー	○2
等	循環生産システム学特別計画研究	○6

備考

- 1 所属するコースの○印の授業科目については、必修とする。
- 2 分野交流科目及び選択したコースの専門分野科目の中から4単位を修得すること。

(新設)

	分子環境土壌学特論 II	1
	生命機械システム特論 II	1
	エネルギーマネジメント特論 II	1
	生体画像計測特論 II	1
	環境調和型エネルギー技術特論 II	1
	生体計測フォトンクス特論 II	1
	生体応用フォトンクス特論 II	1
	視覚情報伝達特論 II	1
	視覚信号処理特論 II	1
	生物コミュニケーション特論 II	1
	資源生産制御特論 II	1

備考

- 1 ◎印の授業科目は、必修とする。
(削る)

食料エネルギーシステム科学専攻

科目区分	授業科目	単位数
基礎専門科目	物質エネルギーシステム特論 I	1
	物質エネルギーシステム特論 II	1
	物質エネルギー設計特論 I	1
	物質エネルギー設計特論 II	1
	エネルギーシステム解析特論 I	1
	エネルギーシステム解析特論 II	1
	生物情報計測システム特論 I	1
	生物情報計測システム特論 II	1
	生態系型環境システム特論 I	1
	生態系型環境システム特論 II	1
	生物応答制御科学特論 I	1
	生物応答制御科学特論 II	1
	食料安全科学特論 I	1

		<u>食料安全科学特論 II</u>	<u>1</u>	
		<u>環境モニタリングシステム特論 I</u>	<u>1</u>	
		<u>環境モニタリングシステム特論 II</u>	<u>1</u>	
		<u>食料エネルギーシステム農学基礎 I</u>	<u>1</u>	
		<u>食料エネルギーシステム農学基礎 II</u>	<u>1</u>	
		<u>食料エネルギーシステム工学基礎 I</u>	<u>1</u>	
		<u>食料エネルギーシステム工学基礎 II</u>	<u>1</u>	
	<u>基盤 科目</u>	<u>上智 大学 大学 院地 球環 境研 究科 開放 科目</u>	<u>環境経済学 I</u>	<u>2</u>
			<u>環境経済学 II</u>	<u>2</u>
			<u>環境経営学</u>	<u>2</u>
			<u>環境政策と参加</u>	<u>2</u>
			<u>環境政策論</u>	<u>2</u>
			<u>CSR 経営論</u>	<u>2</u>
			<u>産業廃棄物処理</u>	<u>2</u>
			<u>環境社会学</u>	<u>2</u>
			<u>環境倫理</u>	<u>2</u>
			<u>環境教育</u>	<u>2</u>
			<u>地球環境工学論</u>	<u>2</u>
			<u>環境史</u>	<u>2</u>
			<u>カーボンマネジメント論</u>	<u>2</u>
			<u>国際環境法 I</u>	<u>2</u>
			<u>環境マーケティング論</u>	<u>2</u>
			<u>環境ビジネス論</u>	<u>2</u>
			<u>環境金融論</u>	<u>2</u>
			<u>環境計画・リスクマネジメント論</u>	<u>2</u>
			<u>International Comparative Studies for Environmental Policies</u>	<u>2</u>
			<u>Japanese Experiences in Environmental Management</u>	<u>2</u>
			<u>International Environmental Treaties</u>	<u>2</u>
			<u>Environmental Law</u>	<u>2</u>
			<u>Environmental Assessment</u>	<u>2</u>

		<u>Integrative Environmental Policy</u>	<u>2</u>
		<u>Ocean and Environment</u>	<u>2</u>
		<u>Marine Environmental Policy</u>	<u>2</u>
		<u>Business Strategies for Sustainability</u>	<u>2</u>
		<u>Environmental Resource Management Policy</u>	<u>2</u>
		<u>環境法 II</u>	<u>2</u>
		<u>森林環境政策</u>	<u>2</u>
		<u>環境・エネルギー技術論</u>	<u>2</u>
		<u>サステナビリティと金融</u>	<u>2</u>
		<u>循環型社会政策論</u>	<u>2</u>
		<u>地球温暖化対策論</u>	<u>2</u>
		<u>エネルギーと環境</u>	<u>2</u>
		<u>環境と消費</u>	<u>2</u>
		<u>環境研究のフロンティア</u>	<u>2</u>
		<u>移動現象と環境</u>	<u>2</u>
		<u>化学物質と環境</u>	<u>2</u>
		<u>国際環境法 II</u>	<u>2</u>
		<u>環境ジャーナリズム論</u>	<u>2</u>
		<u>Global Environmental Policy</u>	<u>2</u>
		<u>Environment and Sustainable Lifestyles</u>	<u>2</u>
		<u>Introduction to Environmental Accounting</u>	<u>2</u>
		<u>Environmental Science and Technology</u>	<u>2</u>
		<u>Environmental Economics</u>	<u>2</u>
		<u>Environment and Development in Developing Countries</u>	<u>2</u>
		<u>Environmental Planning</u>	<u>2</u>
		<u>Global Forest Conservation Policy</u>	<u>2</u>
		<u>Environmental History</u>	<u>2</u>
		<u>Strategic Environmental Management</u>	<u>2</u>
		<u>Sustainable Communities/Projects and Policies</u>	<u>2</u>

		国際文化比較論及び日本語表現特論 I	1
		国際文化比較論及び日本語表現特論 II	1
		国際文化比較論及び日本語表現特論 III	1
		国際文化比較論及び日本語表現特論 IV	1
		日本語と日本の文化概論 I	1
		日本語と日本の文化概論 II	1
		Artistic Impression/Expression	1
		異文化交流特論 I	1
		異文化交流特論 II	1
		科学英語リーディング特論 I	1
		科学英語リーディング特論 II	1
		English Writing and Ethics	1
		物質界面プロセス特論	1
		物質エネルギー材料設計特論	1
		環境エネルギーシステム特論	1
		生物相互作用システム特論	1
		土壌生態系機能解析特論	1
		生物資源循環制御特論	1
		バイオセンシング特論	1
		環境分子動態学特論	1
	キャリア開発プログラム	キャリア開発プログラム I	◎2
		キャリア開発プログラム II	◎2
		キャリア展開プログラム I	1
		キャリア展開プログラム II	1
		キャリア展開プログラム III	1
	社会交流科目	実践型インターンシップ (企業連携)	2
		企業共同研究	2
		国際インターンシップ特論事前学習	1
		国際インターンシップ実習 I	1

	国際インターンシップ実習 II	1
	国際インターンシップ特論事後学習	1
	政策提言	2
研究指導	研究指導 A	◎2
	研究指導 B	◎2
	研究指導 C	◎2
セミナー・ 成果発表	研究成果発表 I	◎1
	研究成果発表 II	◎1
	研究成果発表 III	◎1
	研究成果発表 IV	◎1
	実践的英語研究成果発表 I	◎2
	実践的英語研究成果発表 II	◎2
専門科目	グリーンクリーン食料生産特論 I	2
	グリーンクリーン食料生産特論 II	2
	グリーンクリーン食料生産特論 III	2
	グリーンクリーン食料生産特論 IV	2
	海外研究留学 I	1
	海外研究留学 II	1
	海外研究留学 III	1
	海外研究留学 IV	1
イノベーション科目	イノベーション推進特別講義 I	1
	イノベーション推進特別講義 II	1
	イノベーション推進特別講義 III	1
	イノベーション推進特別講義 IV	1
	イノベーション推進特別講義 V	1
国際科目	実践的英語プレゼンテーション I	◎1
	実践的英語プレゼンテーション II	◎1
	実践的英語プレゼンテーション III	1
	国際交流ワークショップ	2

共同先進健康科学専攻				
	授業科目	単位数(東京農工大学開講)	単位数(早稲田大学開講)	単位数(共通)
専攻基軸科目	化学物質総合管理学		○2	
	生活環境総合管理学		○2	
	食農総合管理学		○2	
	感染症総合管理学		○2	
	研究倫理		2	
	イノベーションリーダーシップ		2	
実践英語教育科目	Professional Communication		1	
	Advanced Technical Reading and Writing		1	
	Advanced Technical Presentation		1	
	Workplace English		1	
専門科目	生命科学	獣医学概論	○2	
		実験動物学特論	○2	
		疾患モデル学特論	○2	
		分子病態制御学特論	○2	
		分子再生医学特論	○2	
		知覚運動制御特論	○2	
		先進がん治療特論	2	
		分子腫瘍学特論		2
		脳・こころの健康医		○2

	国際ディベート演習	1
	国際コミュニケーション演習	1

備考

1. ◎印の授業科目は、必修とする。

共同先進健康科学専攻				
	授業科目	単位数(東京農工大学開講)	単位数(早稲田大学開講)	単位数(共通)
専攻基軸科目	化学物質総合管理学		○2	
	食・生活環境総合管理学		○2	
	感染症総合管理学		○2	
	サイエンスコミュニケーションと研究倫理		2	
	イノベーションリーダーシップ		2	
	Professional Communication		1	
実践英語教育科目	Advanced Technical Reading and Writing		1	
	Advanced Technical Presentation		1	
	Workplace English		1	
	獣医学概論	○2		
専門科目	生命科学	実験動物学特論	○2	
		疾患モデル学特論	○2	
		分子病態制御学特論	○2	
		分子再生医学特論	○2	
		知覚運動制御特論	○2	
		先進がん治療特論	2	
		分子腫瘍学特論		2
		脳・こころの健康医療		○2

	環境科学	療科学特論				
		環境バイオ分析化学特論	○2			
		環境微生物学特論	2			
		環境ゲノム情報解析特論	2			
		植物環境工学特論	2			
		環境生物資源特論		○2		
		環境生理学特論		○2		
	食科学	生活習慣病予防学特論	○2			
		生体分子反応特論	2			
		実践生物統計学	○2			
		時間栄養・薬理学特論		○2		
	演習科目	先進健康科学計画研究				◎4
		先進健康科学セミナーI				◎4
		先進健康科学セミナーII				◎4
先進健康科学セミナーIII					4	
実践プレゼンテーション特論 I					4	
実践プレゼンテーション特論 II					4	
実地研修研究特論					4	
	科学特論	科学特論				
		ゲノム情報科学			○2	
	環境科学	環境バイオ分析化学特論	○2			
		環境微生物学特論	2			
		環境ゲノム情報解析特論	2			
		植物環境工学特論	2			
		環境生物資源特論		○2		
		環境生理学特論		○2		
	食科学	生活習慣病予防学特論	○2			
		生体分子反応特論	2			
		実践生物統計学	○2			
		時間栄養・薬理学特論		○2		
	演習科目	先進健康科学計画研究				◎4
先進健康科学セミナーI					◎4	
先進健康科学セミナーII					◎4	
先進健康科学セミナーIII					4	
実践プレゼンテーション特論 I					4	
実践プレゼンテーション特論 II					4	
実地研修研究特論					4	

附 則 (生規則第2号)

- 1 この規則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 平成27年3月31日現在在学している者の授業科目の名称及び単位数並びに必修又は選択の別、教育課程については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。